

# 令和6年度入学生用カリキュラムマップ

【看護学研究科 看護学専攻 修士課程 看護学研究コース】

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号					
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目					
					1. 知識・理解	2. 技能・表現	3. 思考・判断	4. 態度・志向性	5. 連携	
					1-1	2-1	3-1	4-1	5-1	
特別研究	24MNSM2101	特別研究	2通	専門科目の「生涯発達看護学演習」もしくは「広域実践看護学演習」で明らかとなった研究疑問に基づき、①研究課題の明確化、②研究目的の設定、③研究計画立案、④研究倫理審査、⑤データ収集、⑥分析／解釈、⑦考察、⑧論文作成、⑨発表、が行えるように指導し、看護研究を行う基礎的な能力を育成する。	1. 研究課題を明確化し、研究目的を設定できる。 2. 研究目的に応じた研究計画を立案することができる。 3. 倫理的配慮について検討し、研究倫理審査にて承認を得ることができる。 4. データ収集、分析／解釈、考察をすすめることができる。 5. 結果を論文としてまとめることができる。 6. 研究成果の発表を行うことができる。	○	◎	◎	○	
共通教育科目 専門基礎科目	24MNSM1111	看護研究方法論	1前	看護実践を行う上で不可欠な看護研究の意義および方法、プロセスについて教授し、看護研究を展開する能力を習得させる。	1. 看護実践における看護研究の重要性、意義、活用方法、研究を行う姿勢について理解できる。 2. 看護研究のプロセスや研究計画書を作成する意味、倫理観の必要性、発表方法について理解できる。 3. 研究デザインとして量的研究、質的研究のそれぞれの特徴や方法を理解できる。	○	◎	◎	○	
	24MNSM1112	看護倫理	1後	本科目では、医療倫理の歴史的発展や具体的な問題、看護実践に関する倫理綱領の基本的内容を理解し、看護実践の場で発生する倫理的課題に対応するために、基盤となる諸理論・諸概念を学ぶものである。また、看護実践で遭遇する可能性が高い倫理的課題に関連する具体的な事例に対して、どのように個人や組織が検討し、取り組むのかの基礎的知識を獲得するものである。	1. 看護教育や臨床現場における倫理の必要性について、臨床実践の体験や関連情報に基づいて、自分なりの考え方をまとめることができる。 2. 倫理的な課題に対して、どのように検討するのか代表的な意思決定の考え方に基づいて、多面的に背景や要因を考察することができる。	○	○	○		○
	24MNSM1213	論理的思考論	1前	この科目では論理的な問題解決法について学習するとともに、看護研究における概念枠組みやサブストラクションについて理解し、演繹および帰納的な論理展開の基礎を学習することを目的としている。	1. 4つの思考スタンス、論理的な問題解決法について説明できる。 2. 看護研究における概念枠組み、サブストラクションについて説明できる。 3. 看護研究論文を論理的、批判的に吟味できる。			○	○	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号					
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目					
					1. 知識・理解	2. 技能・表現	3. 思考・判断	4. 態度・志向性	5. 連携	
					1-1	2-1	3-1	4-1	5-1	
共通教育科目 専門基礎科目	24MNSM1214	看護教育論	1後	看護教育の制度やカリキュラム構築の考え方などの基礎的な用語や意味、概要を学習し、看護教育の現状を振り返る。また、その中から看護教育における課題を見出すとともに、看護実践の質的向上に役立つ看護教育のあり方を検討する。さらに、看護の援助技術の具体的な授業設計の検討に基づき、看護教育における倫理教育の重要性についても理解を深める。現任教育・卒後教育におけるニーズや方法を検討し、基礎教育あるいは卒後教育において、効果的な指導方法の在り方を考察することを目的とする。	1. 看護教育の現状と課題をデータに基づき自分の言葉でまとめることができる。 2. 看護の基礎教育における具体的な授業設計を考え、指導案を作成することができる。 3. リカレント教育で必要な継続教育の内容や方法を説明することができる。	○	○		○	
	24MNSM2215	保健看護行政論	2前	国民の健康、QOLを守る保健医療福祉行政の理念と仕組み、法律、制度について理解させるとともに国と地方公共団体の保健医療福祉行政の実際について理解を深める。	1. 保健医療福祉行政の理念と仕組み、法律、制度とその変遷について説明できる。 2. 国の看護政策の基本理念と看護行政、看護行政の政策形成のプロセスについて説明できる。 3. 地方公共団体の保健医療福祉の行財政および施策を事業化するための企画、立案、予算の確保、保健活動の実施体制の整備の実際や社会資源の開発のプロセスの実際について説明できる。	○	○		○	○
	24MNSM1216	看護マネジメント論	1後	看護マネジメント論は、安全で良質な医療を効率的に提供するために必要不可欠な過程である。本講義では、組織管理、安全管理、質管理、目標管理、キャリア開発といった看護マネジメントの基礎的知識を習得する。	安全で良質な医療を提供するために以下の看護マネジメントの基本について理解を深める。 1. 組織における看護体制 2. ケアにおけるマネジメント 3. チーム内でのメンバーシップやリーダーシップ 4. 看護ケアサービスの質管理				○	○
	24MNSM1217	対人援助論	1前	人と人との関係や援助関係について対象関係論の考え方をもとに理解を深め、援助が困難な事例を検討することによって、対人援助のあり方やそのために必要な援助者自身の取組や考え方について理解を深める。	1. 人間関係、対人関係、対象関係とは何か理解できる。 2. こころの成長（自立、自律）にむけての援助とは何か、援助関係とは何かを考えることができる。 3. 援助を求められない人の現状を知り、今後の課題について考えることができる。 4. 援助を求めない人の現状を知り、今後の課題について考えることができる。 5. 援助を継続するために必要な援助者としての資質や資源のあり方について考えることができる。	○			○	○
	24MNSM1218	看護統計法	1前	看護研究に必要な情報の収集、処理、活用についての基本的な考え方を理解する。また、基本的な統計理論について学び、統計ソフトを利用して統計処理を行うための、基礎的な能力を修得する。	1. コンピュータやネットワークを利用した情報の収集・処理・活用についての基本的な考え方が理解できる。 2. 看護研究において情報処理や統計学を学ぶ必要性が理解できる。 3. 看護研究を実施する上での、基本的な統計理論や分析方法について理解できる。 4. 統計ソフトを用いて、データ入力・分析・分析結果の読み取りができるための基礎的な能力を修得する。	○	○	○		

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号					
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目					
					1. 知識・理解	2. 技能・表現	3. 思考・判断	4. 態度・志向性	5. 連携	
					1-1	2-1	3-1	4-1	5-1	
共通教育科目 関連科目 (他研究科教育科目)	—	保健医療分野に関する理論と支援の展開	1前	公認心理師等の心理実務者として、医療機関や地域で、さまざまな疾病や健康問題を抱える人の心理状態や心理的ストレスの程度・内容を理解し、精神状態や精神疾患を適切に把握し、必要な心理的支援を行える能力を育成する。	1. 疾病や健康問題を抱える人の心理とその基底にある心理機制が理解できる。 2. 疾病や健康問題を抱える人にみられる精神状態・精神疾患を的確に評価できる。 3. 上記1および2のために有用な心理検査を実施できる。 4. 以上の理解と評価に基づいて、心理療法（集団療法、認知行動療法等を含む）などの必要な心理的支援が行える。 5. 乳幼児健診等の母子保健事業において、母性や乳幼児の心理に関する援助ができる。 6. 認知症が疑われる高齢者への支援ができる。	◎	○	○		
	—	家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践	1前	従来心理支援は、個人に対する支援が中心であったが、時代の変化と共に家族関係など集団の関係性を取り上げたり、地域社会や集団・組織に働きかける支援も重視されるようになってきた。この授業では、集団の関係性に焦点づける心理支援およびコミュニティへの心理支援を中心に様々な理論ならびに方法論を学ぶことを目的とする。	1. 家族関係等集団の関係性に焦点づけた心理支援の理論や方法を説明できる。 2. 地域社会や集団・組織に働きかける心理学的援助に関する心理学的援助の理論や方法を説明できる。 3. これらの理論や方法を心理に関する相談や助言、指導などに応用できる。	○				
	—	人間・社会福祉学特論	1前	この科目は、「老い」とは何かについて多角的に理解し、自分なりの「老い」に関する考えをまとめ、様々な背景を持つ人々の「老い」に伴う諸問題について考察することを目的とする。	1. 「老い」の医学的、心理的、社会的側面を理解し、その相互作用を考える。 2. 女性の「老い」、社会的弱者の「老い」など、さまざまな「老い」の特色を考える。 3. 「発達・成長」としての「老い」の側面を理解する。 4. メディアにおける「老い」を分析し発表する。 5. ライフレビューを行い、レポートを書く。	○				
	—	子ども・家庭福祉学特論	1前	近年着目されている「アタッチメント」を軸に講義を展開する。子どもの成長・発達に伴う養育者との愛着形成は、学童期－思春期－成人期－老年期にまで影響を及ぼすことが論じられるようになっていく。近年では愛着関係の脆弱化も危惧されており、愛着障害の問題にも関心が高まっている。 子ども（人間）の成長発達と家族を支える方法を臨床教育学的な視点から理解する。	愛着の基礎理解、母子間における世代間連鎖、愛着障害の出現、不適切な関わりと虐待、学童期、思春期に与える影響、成人期以降に与えられとされる影響などについて、家族の発達段階を中心に理解を深める。	○				
	—	発達臨床心理学特論	1前	本授業では、発達に関する理論と研究方法について学習した後、認知能力、運動能力、社会能力の各領域について、乳児期から老年期までを展望する。	本授業の目標は、受講者が各発達段階の特徴を理解し、その知見を各々の実践活動において利用できるまで習熟することにある。	○				

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号					
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目					
					1. 知識・理解	2. 技能・表現	3. 思考・判断	4. 態度・志向性	5. 連携	
					1-1	2-1	3-1	4-1	5-1	
共通教育科目 関連科目(他研究科教育科目)	—	障害児・者の教育と心理	1後	特別支援教育の実施にとって不可欠である障害児・者の理解を深め、多義に渡る障害について学習、社会性、認知、運動面のアセスメントと支援の方法についての最新の知見を学ぶ。障害特性に即した効果的な支援を実践できるための知識を習得する。	1. 年齢を問わず、障害特性に即した支援方法を知識として習得する。 2. 各障害について、乳児期から義務教育終了後までの、臨床像を知り、利用できる支援についての情報を把握する。	○				
	—	医療倫理特論	1前	医療は、その性質から厳しい規制や遵守すべき事項が多くある。医療従事者は、これらの必然性について歴史的な意味も含めて十分理解したうえで実践していかなければならない。各人が倫理観を培い、今後生じてくるであろう新たな医療問題についても自身で考えうる能力を身につけることを目的とする。	①医療倫理について理解する。 ②医療倫理に基づき、栄養管理を考えることができる。 ③事例ごとに、具体的に医療倫理の考えを応用できる。	○				
	—	福祉行政論特論	1前	日本国憲法第二十五条に規定される国民の権利である、「健康で文化的な最低限度の生活を営む権利」を具体化するための福祉行政、福祉施策のあり方についての理解を深める。	社会福祉、社会保障問題の現状分析と生活全般の改善を通じた健康づくりに関する種々の課題を解決するための能力を身につける。	○				○
	—	運動機能障害学特論	1前	中枢神経障害および内部障害による運動機能の喪失について、その特徴および運動機能解析について基本的理解を得る。さらに、それらの評価と介入についても理解する。 なお、本科目は中高(保健体育)専修免許取得に関する科目である。	修士課程大学院生が運動機能障害学に関する基本的理解を深め、理学療法の評価と介入について論理的に説明することができる。	○				
専門教育科目 生涯発達看護学領域	24MNSM1231	生涯発達看護学総論	1前	生涯発達の視点で対象および家族を理解し、現代社会において、様々な発達段階にある対象への看護上の課題を見出すための基本的な知識・考え方を修得する。	1. 生涯発達の視点で、対象および家族についての理解を深める。 2. 社会における次の現状を学び、様々な発達段階にある対象への看護上の課題を見出すことができる。 1) 小児期に応じた看護の現状 2) 女性の生涯に応じた看護の現状 3) 成人期に応じた看護の現状	◎	○	◎	○	○
	24MNSM1232	生涯発達看護学特論A(成人慢性看護学)	1後	慢性疾患を有する患者に関わる看護実践ならびにその研究のために必要な基礎知識を学習し、理解を深める。	慢性期疾患患者の主要な概念や理論・モデルを理解し、根拠に基づいた看護実践の選択やその効果を検証する方法を考えることができる。	◎	○	○	○	○
	24MNSM1233	生涯発達看護学特論B(成人急性看護学)	1後	生命危機の状況が人間におよぼす影響を理論的に追求し、実践と研究への適応を探究するとともに、患者・家族の身体的反応や行動特性、社会的心理的影響を探究する。	生命や健康の危機状況下における患者・家族を総合的に捉える基盤となる危機理論、ストレス・コーピング理論、ボディ・イメージの変容について理解を深め、実践への応用力を身につける。専門的援助方法の事例を通して、患者・家族の体験とその意味を探究し、看護に適用できる力を磨く。	◎	○	○	○	○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号						
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目						
					1. 知識・理解	2. 技能・表現	3. 思考・判断	4. 態度・志向性	5. 連携		
					1-1	2-1	3-1	4-1	5-1		
専門教育科目	生涯発達看護学領域	24MNSM1234	生涯発達看護学特論C (小児看護学)	1後	対象となる子どもと家族のアセスメントツールや尺度の概説と開発プロセスを知ることから、子どもや家族のニーズの把握や対応に対する研究方法を具体的に試案すること、また援助側の看護師や専門職の役割と連携の概説から、職種間の協働について考えることを目的としている。	1. 入院中の子どもと家族の事故予防に関する研究事例から、実践に活用できるツールの開発過程を理解できる。 2. 子どもの家族を対象とした研究事例から、健康障害が子どもと家族に影響する要因の把握方法について考えることができる。 3. 小児看護を実践する援助者に関する研究事例から、援助する側の影響について考えることができる。 4. 研究を小児看護の実践にいかに関活用できるかを検討し、実践に使える研究課題を考えることができる。	◎	○	○	○	○
		24MNSM1235	生涯発達看護学特論D (母性看護学)	1後	母性看護における主要概念や理論を理解するとともに母性看護における研究の動向を把握するとともに、母性看護実践におけるエビデンスとは何かについて、研究結果やガイドラインから探求する。これらの学修内容を踏まえて母性看護やウイメンズヘルスにおける看護研究や看護実践への適応について考察する。	1. 母性看護における主要概念や理論について理解する。 2. 母性看護におけるエビデンスについて理解する。 3. 上記目標1. 2. のもとに看護研究や看護実践への適応を考察できる。	◎	○	○	○	○
		24MNSM1236	生涯発達看護学演習A	1前	生涯発達の視点で対象および家族を理解し、看護実践の場における問題意識から、文献検討や関連領域でのフィールドワーク、実践、ディスカッションを通して、研究疑問を明らかにし、研究計画立案に向けての基礎的な知識・思考を修得する。	1. 看護実践の場における自身の問題意識を明確にする。 2. 自身の問題意識に基づき、和文および英文の文献検討を行うことができる。 3. 和文および英文の文献をクリティークする視点が理解できる。 4. 必要性に応じて、自らフィールドワークや実践の場を選択し、アクセスすることができる。 5. 上記を行いながら、研究疑問を明らかにすることができる。 6. 研究計画立案に向けての基礎的な知識・思考を修得する。	○	○	◎	◎	
		24MNSM1237	生涯発達看護学演習B	1後	生涯発達の視点で対象および家族を理解し、看護実践の場における問題意識から、文献検討や関連領域でのフィールドワーク、実践、ディスカッションを通して、研究疑問を明らかにし、研究計画立案に向けての基礎的な知識・思考を修得する。	1. 看護実践の場における自身の問題意識を明確にする。 2. 自身の問題意識に基づき、和文および英文の文献検討を行うことができる。 3. 和文および英文の文献をクリティークする視点が理解できる。 4. 必要性に応じて、自らフィールドワークや実践の場を選択し、アクセスすることができる。 5. 上記を行いながら、研究疑問を明らかにすることができる。 6. 研究計画立案に向けての基礎的な知識・思考を修得する。	○	○	◎	◎	
広域実践看護学領域	広域実践看護学領域	24MNSM1241	広域実践看護学総論	1前	制度・施策と看護との関係について理解し、現代社会において、様々な健康状態にある対象への看護上の課題を見出すための基本的な知識・考え方を修得する。	1. 制度・施策と看護との関連についての理解を深める。 2. 社会における次の現状を学び、様々な健康状態にある対象への看護上の課題を見出すことができる。 1) 看護教育・実践、技術開発についての現状 2) 高齢者をめぐる制度や政策・施策についての現状 3) 精神障害者をめぐる制度や政策・施策についての現状 4) 在宅療養者をめぐる制度や政策・施策についての現状 5) 地域住民の健康格差と保健医療福祉制度および公衆衛生活動の現状	◎	○	◎	○	○
		24MNSM1242	広域実践看護学特論A (基礎看護学)	1後	基礎看護学分野における研究の理論や研究内容についての現状および動向について講義し、研究課題の見つけ方と具体的な研究方法について教授する。	1. 基礎看護学分野の研究に必要な理論を知る。 2. 基礎看護学分野における研究内容とその現状や動向についての知識を得る。 3. 基礎看護学分野の研究についての研究方法および今後に必要な研究の課題を知る。	◎	○	○	○	○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号				
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目				
					1. 知識・理解	2. 技能・表現	3. 思考・判断	4. 態度・志向性	5. 連携
					1-1	2-1	3-1	4-1	5-1
24MNSM1243	広域実践看護学特論B (老年看護学)	1後	老年看護学を実践するための理論や概念について理解し、高齢者の健康の維持・増進のための看護を探究する論理的思考を養うことを目的とする。	1. 高齢者看護実践のための重要な概念や理論を説明できる。 2. 高齢者看護分野の研究の動向について概観できる。	◎	○	○	○	○
	24MNSM1244	1後	精神看護におけるエビデンスの考え方や基盤となる理論の概観について理解し、実際の看護実践と関連づけ、精神看護の実践とエビデンス・理論との関係について理解し、自らが問題意識をもって探究することによって今後の課題を見出すことができる。	1. 精神看護の基盤となる理論やエビデンスの考え方や概観を理解できる。 2. こころの成長や自立に向けての基盤となる理論とその活用についての学び方が理解できる。 3. 人と人との関係を通してのアプローチの考え方やその活用についての学び方が理解できる。	◎	○	○	○	○
	24MNSM1245	1後	保健医療福祉の制度と在宅ケアシステムとのかかわりにおいて、在宅療養者と家族のQOLを高める看護実践のあり方と課題解決の方向性を学習する。	1. 在宅ケアに関連する保健医療福祉制度とケアマネジメントの現状と課題を整理し、課題解決の方法について考察できる。 2. 在宅療養者と家族のQOLを高める看護実践方法を説明することができる。	◎	○	○	○	○
	24MNSM1246	1後	公衆衛生看護の対象（個人・家族、集団、地域）の健康増進に寄与する公衆衛生看護の基盤となる理論を概観し、公衆衛生看護活動の国際比較を教授する。科学的根拠に基づいた公衆衛生看護活動の政策形成プロセスについて教授する。保健活動の科学的根拠となる看護研究の動向と看護研究に基づいた保健活動の実践について解説する。	1. 公衆衛生看護の基盤となる理論について説明できる。 2. 公衆衛生看護活動の国際比較について説明できる。 3. 科学的根拠に基づいた公衆衛生看護活動の政策形成プロセスについて説明できる。 4. 母子、成人、高齢者保健活動の科学的根拠となる看護研究の動向と看護研究に基づいた母子、成人、高齢者保健活動の実践について説明できる。 5. 看護学研究コースの学生の実践の場や看護学研究保健師コースの広域実践看護学実習（公衆衛生看護学）およびハイリスク事例支援特論、地域マネジメント特論の中でめばえた関心や問題意識から探究する意義や重要性を認識できる。	◎	○	○	○	○
	24MNSM1247	1前	制度・施策のあり方等社会と看護との関係を理解し、看護実践の場における問題意識から、文献検討や関連領域でのフィールドワーク、実践、ディスカッションを通して、研究疑問を明らかにし、研究計画立案に向けての基礎的な知識・思考を修得する。	1. 看護実践の場における自身の問題意識を明確にする。 2. 自身の問題意識に基づき、和文および英文の文献検討を行うことができる。 3. 和文および英文の文献をクリティークする視点が理解できる。 4. 必要性に応じて、自らフィールドワークや実践の場を選択し、アクセスすることができる。 5. 上記を行いながら、研究疑問を明らかにすることができる。 6. 研究計画立案に向けての基礎的な知識・思考を修得する。	○	○	◎	◎	
24MNSM1248	1後	制度・施策のあり方等社会と看護との関係を理解し、看護実践の場における問題意識から、文献検討や関連領域でのフィールドワーク、実践、ディスカッションを通して、研究疑問を明らかにし、研究計画立案に向けての基礎的な知識・思考を修得する。	1. 看護実践の場における自身の問題意識を明確にする。 2. 自身の問題意識に基づき、和文および英文の文献検討を行うことができる。 3. 和文および英文の文献をクリティークする視点が理解できる。 4. 必要性に応じて、自らフィールドワークや実践の場を選択し、アクセスすることができる。 5. 上記を行いながら、研究疑問を明らかにすることができる。 6. 研究計画立案に向けての基礎的な知識・思考を修得する。	○	○	◎	◎		

専門教育科目  
広域実践看護学領域